



営業スタッフが覚えておきたい Excelを使った粗利益率計算法

(株)KOUZIRO 代表取締役社長 松本大輔

当社は、オフィスのIT化を進めることを使命としてPC事業を行っております。しかし、残念なことに導入したIT技術が活用しきれていない。つまり、使う人たちの準備ができていないということを再認識させられる場面に多々遭遇します。

PCの導入、システムの導入というのはIT化の第1ステップでしかありません。ここで安心してはいけなく、せっかくのIT投資の効果を最大限に発揮できるようにしていかなければなりません。

IT投資効果の最大化のためにはどうしたらいいのか。そのことを身近な事例で紹介していこうというのが、今回の連載の目的です。第1回は、「表計算ソフトExcelを使った粗利益率の計算方法」です。

先日の弊社での出来事

ちょっと情けない話ですが、先日、自社の営業担当者に伝票について電話で質問した時のことです。当社では売上傳票はシステムで入力・閲覧

表1)ある案件の売上げ伝票

伝票番号	売上額	粗利率
12495	76,000	24.4%
12496	470,000	12.5%
12497	212,000	15.8%
12498	125,000	15.2%

できるようになっており、その売上傳票には、当該案件の売上額と粗利率が表示されています。

売上傳票1枚ごとの売上額と粗利率は誰でも瞬時に分かります。しかし、伝票は出荷日や納品先ごとに分けており、本来は1案件であっても複数伝票になることもあります。

ちょうど、その時は4枚の伝票で1案件になっており、それを表1のように1枚にまとめ直しました。

その上で担当者に「合計額と粗利率は？」とたずねたところ、「えーと、計算しますから、ちょっと待ってください。売上の合計額は883,500円です。粗利率は、えーと17%くらいです」と返答が返ってきました。

「くらい」というところにアンダーラインを引いてしまいましたが、その時、私の耳では、その「くらい」だけが、協調して聞こえてしまったのです。

ちょっとお考えいただくと分かるのですが、売上の半分以上を占める伝票番号12496の粗利率が12.5%しかないのに、また、12497と12498の伝票は粗利率が15%台なのに「どうして17%もあるのだろう？」と疑問がわいた、というのが正しいのかもしれませんが。

「その全体の粗利率、どうやって計算したの？」と聞くと、「いや、平均

しました」との返答が返ってきてガックリ。「ちょっと正確に計算してよ」とお願いしても、今1つ要領を得ない。結局のところ、粗利率の計算方法を知らなかったというのが、この話のオチなのですが、笑えないですよね。

我が身を振り返っても「そういえば、粗利率の計算方法をきちんと習ったことがあったかなあ」と思い返すと、これと記憶にない。

粗利率を求める公式は、「粗利率÷売上高(×100)」です。分かっている方は「何を今さら」と思われるでしょう。

ところがIT化の弊害ともいえるかもしれませんが、粗利率はシステムが計算してくれるものだという認識を持つ方も多く、人間がするものではないという、おかしな状態になってしまったとも考えられます。

だからといって、電卓で毎回計算して確認しろというのは、IT化を逆行させる本末転倒な事態。できるだけ簡単に意識させるようにしないといけません。

Excelを使った計算法

そこで、今回はExcelを使って、簡単に全体の粗利率を求める方法をまとめてみました。

まずは、先の表1をExcel上に作ります(図1)

次にD列に粗利額を計算していきましょう。D2に「=B2*C2」という数式を入力します(図2)

同様にD3~D5まで行なえば、売上伝票ごとの粗利額を計算できます(図3)

見栄えが悪いので、D1に「粗利額」と入力して、D2~D5までを「コンマ区切り」にしましょう(図4)。コンマ区切りをするためには、まず、マウスをD2に合わせて左クリックしたままD5までマウスを動かしてボタンを放すと、セルの色が変わります。その後、「,」ボタンをメニューから選んで、押せば変わります。

では、本題の合計を作っていきます。B6のセルをクリックした後、「,」ボタンを押せば、合計するセルを選ぶことができます。自動的にB2~B5が選ばれているはずですから、そのまま[Enter]キーを押します。同様に、D6でも「,」ボタンを押して、合計値を表示させましょう(図5)

これで、最後にC6に数式「=D6/B6」を入力すれば、全体の粗利率が得られます(図6)

分かっている人からすれば、簡単なことかもしれませんが、これで粗利率を計算する方法が分かった、という感想もありました。さて、何%の粗利率が正しかったのでしょうか。意外なことかもしれませんので、ぜひ一度、営業スタッフに同じ質問を試してみてください。

せっかく、ここまで読んでいただいた方へのプレゼントとしてSUMPRODUCT関数を紹介します。こういった計算は、よく見積書などでもありますが、単価と個数を1行ずつ掛けていって、合計値を出すという操作は、実は一気に出すことができます。

図1

	A	B	C	D	E	F
1	伝票番号	売上額	粗利率			
2	12495	76,000	24.40%			
3	12496	470,000	12.50%			
4	12497	212,500	15.80%			
5	12498	125,000	15.20%			
6						
7						

図2

	A	B	C	D	E	F
1	伝票番号	売上額	粗利率			
2	12495	76,000	24.40%	=B2*C2		
3	12496	470,000	12.50%			
4	12497	212,500	15.80%			
5	12498	125,000	15.20%			
6						
7						

図3

	A	B	C	D	E	F
1	伝票番号	売上額	粗利率			
2	12495	76,000	24.40%	18544		
3	12496	470,000	12.50%	58750		
4	12497	212,500	15.80%	33575		
5	12498	125,000	15.20%	19000		
6						
7						

図4

	A	B	C	D	E	F
1	伝票番号	売上額	粗利率	粗利額		
2	12495	76,000	24.40%	18544		
3	12496	470,000	12.50%	58750		
4	12497	212,500	15.80%	33575		
5	12498	125,000	15.20%	19000		
6						
7						

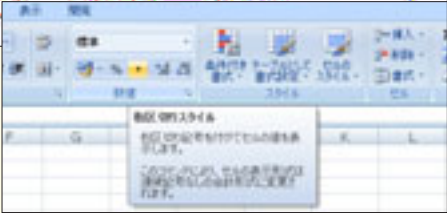


図5

	A	B	C	D	E	F
1	伝票番号	売上額	粗利率	粗利額		
2	12495	76,000	24.40%	18,544		
3	12496	470,000	12.50%	58,750		
4	12497	212,500	15.80%	33,575		
5	12498	125,000	15.20%	19,000		
6		883,500		129,869		
7						

図6

	A	B	C	D	E	F
1	伝票番号	売上額	粗利率	粗利額		
2	12495	76,000	24.40%	18,544		
3	12496	470,000	12.50%	58,750		
4	12497	212,500	15.80%	33,575		
5	12498	125,000	15.20%	19,000		
6		883,500	=D6/B6	129,869		
7						

ちなみにD6のセルの結果はD2~D5を作らずとも「=SUMPRODUCT(B2:B5,C2:C5)」という数式で得られます。

Excelの表作りで、スペースに限界

がある時や、一気に計算してしまいたい時などには便利な関数です。(文中のExcelはバージョン2007を使用しています。他のバージョンでは画面デザインが若干異なります)